

私たちの地域学校協働活動 ～地域と学校 ころを合わせて子どもを育む～

竜王町	活動名：竜王町地域学校協働本部	竜王こども園・竜王小学校・竜王西小学校・竜王中学校 学校運営協議会： ☒ 有 ☐ 無
地域学校協働本部概要 ※実施した活動内容全てに ☒ 印 開始年度：平成22年度 地域学校協働活動推進員等数：4人 ボランティア登録数：661人(平成23年からの累計) ☒ 学習支援(授業補助、学力補充等) ☒ 図書ボランティア(読書活動支援、図書室環境整備) ☒ 学校行事支援 ☒ 子どもの安全確保、見守り ☒ 部活動支援 ☒ 学校周辺環境整備 ☐ 学びによるまちづくり ☐ 地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育) ☐ 地域行事への参加 ☐ ボランティア・体験活動 ☒ 郷土学習 ☐ その他[]		

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに☒印)

☒学校・園 ☒学校運営協議会 ☐地域学校協働活動推進員等 ☒行政 ☐その他()

■ 学校運営協議会で熟議された内容(地域学校協働活動に関わる内容等)

- ・学校のグランドデザイン(学校教育目標)を熟議し、「どんな子どもに育てほしいのか、そのためには子どもの健やかな成長に地域はどう関わるか」などを地域学校協働本部でいかに具現化していくかを検討した。



【 町内古墳巡り 】

■ 地域と学校が協働した活動(特徴的な活動)

(1)学習支援

- ・竜王小学校においてクラブ活動を「地域の方と学ぶ場」とし、地域の方の特技等を活用して、児童自らの興味関心をもとに様々な活動を行うことにより、将来の夢や目標の実現に向け、今後のキャリア形成に効果的に作用させるという考え方のもと、クラブを12立ち上げクラブ活動の指導に地域の方に入っていた。
- ・体力測定支援、自習見守り、家庭科授業支援や農園支援などにより教員の働き方改革の一助となっている。
- ・小学校では基礎基本の反復の一環で脳を最も活性化させる効果があるとして、小説などの暗唱と音読を行っているが、小説の聞き役を「暗唱聞いて先生」としてボランティアに依頼した。

(2)学校行事支援

- ・学校事業等に、子育て中の保護者も参加できるように託児支援を行った。
- ・ジョギング大会中の横断見守りを行い、学校行事に参加する児童の安全確保を行った。
- ・田植え、稲刈り体験の支援、ベルマーク集計等の支援を行った。

(3)ふるさと学習(双方向の取組)

- ・町内古墳巡りや自然学習など「地域学習」に注力することにより、ふるさと竜王にまつわる伝統や歴史等の地域資源(地域教材)を理解し、竜王への愛郷心を育てるきっかけの一つとしている。
- ・新しく赴任した教職員への地域学習機会の提供している。

■ 実施に当たっての工夫

- ・ボランティアを募集する際に、児童の保護者や家族(祖父母)に声をかけている。

■ 事業の成果

- ・地域学校協働本部に届いた児童からの感謝の手紙を支援ボランティアに宛てた暑中見舞いや年賀状に添付をすることで、子どもたちの感謝の声を直接ボランティアに伝え、喜びを感じていただくことにより、ボランティアのやりがいを提供できた。
- ・ボランティアに参加することで、子どもや孫の学校での家庭とは違う姿を見ることができ、新たな発見ができた。
- ・ボランティアと児童が顔見知りになり、日頃から地域でのコミュニケーションが取れた。

■ 事業実施上の課題と今後の協働活動の工夫や展望

- ・地域には優れた知識や技術を持った人材がたくさんおられるにも関わらず、ボランティアの継続や新規発掘に苦慮している。拠点となっている公民館に来てくれる方には声かけられるが、地域で活動する方にまで声をかけられない。
- ・学校と地域で双方向性のある展望を持った活動を行うためには、「社会に開かれた教育課程」をいかに実現するかが重要な鍵となる。そのため、地域連携にかかる年間活動計画を作り、学校と地域、お互いが全体を見据えながら事業を展開する必要がある。
- ・統括地域学校協働活動推進員を公民館に配置しているが、学校からの急な支援依頼の対応に苦慮している。

■ その他(学校運営協議会との協働等)

- ・より深い学校支援を行うためには、地域学校協働本部と学校運営協議会が一層連携を密にする必要がある。
- ・町内にある校園全てに学校運営協議会は設置できているが、まだ地域学校協働本部との完全な連携の実現にまで至っていない。

■ 協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに☒印)

☒校長 ☒教頭 ☒地域連携担当教職員 ☐その他()

報告書記入者(公民館 公民館係)